

## トルコ：主要政策金利を2回連続で引き下げ

2016年4月21日

### <主要政策金利を2回連続で引き下げ>

トルコ中央銀行は、4月21日（現地）に行われた金融政策委員会で、翌日物貸出金利（コリドー上限金利）を0.50%ポイント引き下げ、10.00%としました。3月にも翌日物貸出金利を0.25%ポイント引き下げており、主要政策金利は2会合連続での引き下げとなりました。また、1週間物レポ金利と翌日物借入金利（コリドー下限金利）については、それぞれ7.50%と7.25%で据え置かれました。ブルームバーグによると、ほとんどのエコノミストが翌日物貸出金利の0.50%ポイントの引き下げを予想しており、市場予想通りの結果と言えます。

声明文では、最近の世界的な金融市場の変動がいくらか改善していることなどから、金融政策の簡素化を慎重に進めることを決定したとの説明がありました。ただし、コアインフレ率の基調の改善が限定的であることから、流動性に対しては引き締めの必要が示唆されました。

### <今回の金融政策委員会は新しい中央銀行総裁の下での初めての会合>

これまで注目を集めていた中央銀行の総裁人事では、ムラト・チェティンカヤ氏が副総裁から昇格しています。市場では、金融緩和に積極的な外部の人物が指名されるのではとの臆測もありましたが、中央銀行の内部からムラト・チェティンカヤ氏を選出されました。今回の会合は、チェティンカヤ新総裁にとって初めての会合となり、会合の結果や声明文などを通じて、今後の金融政策スタンスに注目が集まっています。

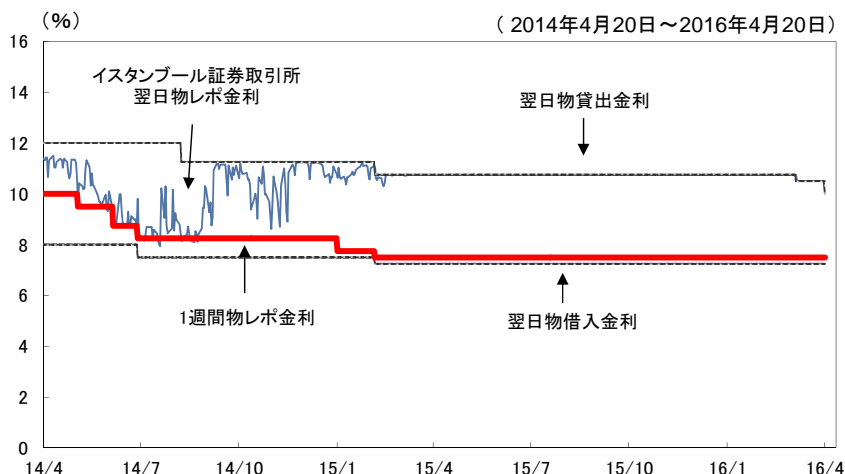
### <トルコ金融市場は上昇が続く見込み>

今後の金融政策については、従来通り、金融市場や経済の動向をにらみながら金融政策の簡素化をめざす中で、3つの主要政策金利を最終的には「単一金利」にすることをめざすと考えられます。

足元のトルコ金融市場では、新しい総裁が中央銀行の内部から選出されたことや、トルコの金融緩和期待に加えて、市場の新興国に対するセンチメントが改善していることから、大きく金利が低下する展開となっています。

トルコの金融市場は引き続き、米国の金融政策をめぐる思惑や、資源価格の動きなど外部要因の影響を受ける可能性があります。しかし、相対的に高い金利水準であることや2015年11月の総選挙で公正発展党が単独過半数を確保し、安定政権下での構造改革が期待できることなどから、トルコは引き続き魅力的な投資対象と考えられます。

### 政策金利の推移



以上

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>